

新潟大学広報誌

新大広報

campus  
forum

# Niigata University Campus Magazine

2006年夏号

No.161

## 仕事談話

～先輩たちに聞く～



新潟の文化を訪ねて

副専攻のススメ

健康コラム

社会不安障害(社会恐怖)について

shindai NEWS

災害復興科学センター設置

大学院技術経営研究科設置

新潟大学全学同窓会設立

8月から学務情報システムが生まれ変わりました!

学務部からのお知らせ

お手柄!工学部学生、人命救助で表彰



「将来どんな職業に就こうか」「将来何をしようか」と、迷っている人は多いはず。自分が知っている選択肢の中だけで決めようとはしていませんか。世の中には意外と知られていない多種多様な活躍の場があります。そこで今回は、仕事やさまざまな活動で多彩に活躍されている卒業生を紹介。広い世界を見て、未来を考えるヒントにしてください。

## 社会と関わってこそ 気付くことがたくさんあります。

落田真紀子さん

●プロフィール  
1997年3月、経済学部経済学科卒業。  
現在は、新潟県魚沼地域振興局企画振興部に所属。



職場の正面玄関で

落田さんは現在、新潟県魚沼地域振興局企画振興部に勤務とお聞きしました。就職のきっかけは何でしたか。

落田●私は大学入学当初から漠然とですが、生まれ育った新潟に何か貢献できる職につきたいと思っていました。在学中は就職活動に失敗し、就職浪人中、新潟市職員がいいのか新潟県職員がいいのか結構悩みました。結局、新潟県の職員として働ければ、新潟市=都市部だけでなく、新潟県のいろいろな地域に関わることができると思い、新潟県の試験を受け、平成10年に一般行政職として採用になりました。

採用から2年後、最初の異動で当時の北魚沼郡小出町(現:魚沼市)にある小出保健所勤務となりました。生活環境も新潟市内の親元での生活から、魚沼での一人暮らしとなりました。新潟市以外の地域で働いてみたいという願いはかなったのですが、最初の頃は正直に言うとうつろろという地域に対する知識も無ければ思い入れも持たず…周りから見るとつまらなそうに働いていたようです。しかし仕事を通じて、また、仕事以外の人達との付き合いによって、徐々に魚沼の魅力が分かるようになっていき、今ではすっかり魚沼が好きになってしまいました。



小出保健所勤務の頃

県職員として地域で活動してきたことについての意義、仕事の楽しさや難しさについて教えてください。

落田●本来、公務員は社会のため公の奉仕者として働くべきものです。しかし私の場合は、魚沼のために働いているというより、魚沼という地域が私に生活や仕事の楽しさを感じさせてくれた感覚さえています。

県職員が地域で働くということは、公務員として地域のために何かをしてあげようと思いつけるのではなく、地域の中に入って行って、この地域には何が必要なのか、何を求められているのか、地域の本当の声を聞く、感じるという姿勢が大事なのだらうなと思います。現場に近いというのは難しいことかもしれませんが、今の私にとってはむしろ生きがいの感じられる楽しいことです。

地域振興としてどのような活動をされているのでしょうか。

落田●地域振興にはいろいろな形がありますが、たとえば、地域の魅力を発掘していろいろな形で情報を発信していくことです。魚沼地域振興局では、特産物などの首都圏でのPRや、地域資源のデータベース化を行っています。私も、地域向けの広報紙を作成したり、県のホームページに地域情報を掲載したり。最近では、フィルムコミッションという、映像の制作側へ地域の情報を提供してロケ地を誘致しようという非営利組織の設立準備にも少し携わらせてもらいました。

地域の情報を発信し、魚沼の魅力を多くの人に知ってもらうことで、交流人口の拡大や地域の活性化につなげていけばということなのですが、それ以上に、自分たちの地域の良さを自分たちが実感するきっかけになるというと思っています。



職場にて

新潟県魚沼地域の良さは何ですか。

落田●何といっても「人」です。魚沼に来てから、大勢の方からとても温かく親切に接してもらっています。人事異動がきっかけの、偶然の魚沼の生活ですが、魚沼の人達と知り合えて本当に良かったと思っています。あと、月並みですが、自然・水・食べ物。西日に照らされた越後三山には見とれてしまいます。ご飯も、新潟市でも十分美味しいと思っていたのですが、魚沼に来ることがあったら、普通のお店で、普通に定食などを食べてみてください。絶対美味しいですよ!

新潟大学の思い出、魅力は何でしょうか。

落田●新潟大学。もともと勉強すれば良かった。真っ先に浮かぶのはこの言葉です。大学へ行っている時間より、バイトや旅行をしている時間の方が長かったですから。せっかく豊富なカリキュラムが用意されていたのに、全然活用しませんでした。もったいなかったと今になって思います。

最後に、後輩の皆さんにメッセージをお願いいたします。

落田●私自身の反省をふまえて。自分の自由に行動できることが学生時代の素晴らしさですが、やりたくないことや面倒なことからあまり逃げないで向き合ってみてください。社会に出たときにぶつかる壁を覚悟して、乗り越える強さを少しでも多く身につけてください。そのうえで豊富な時間を存分に活かして、ぜひ楽しい学生生活を送ってください。



学生時代のバイト先の先輩と粟島へ(右が落田さん)

# Makiko OCHIDA



## 幅広い職業選択のために

～人の縁とプロセスの習得～

### 佐藤朋彦さん

#### ●プロフィール

1981年3月、理学部地質鉱物学科卒業。同年、総理府統計局に入局。1991年経済企画庁経済研究所へ、2002年福岡県庁へ、2004年東京大学社会科学研究所へ助教として出向。現在は、総務省統計局統計調査部消費統計課に所属。

佐藤さんが総理府統計局に入局された経緯をお話してください。

佐藤●実は大学卒業後、すぐに総理府統計局へ入ったのではなく、半年ほど母校の高校で講師をしていました。その年の夏ごろに総理府統計局でプログラマーの採用試験があり、それに合格して統計局に採用されました。プログラマーの採用試験を受験するきっかけとなったのは、大学1年の教養課程の授業で統計を学んだことにあります。

その授業を担当された農学部林学科の高田和彦教授が数ヶ月ほど海外に出張されることになり、その間、統計を学ぶのにぜひ必要だからとのことで、当時の電算センターの方からFORTRANによるプログラミングを教えていただきました。

また、教養課程で統計を学ぶことを勧めてくれたのは、たまたま新入生歓迎コンパで隣の席に座られた地質鉱物学科の島津光夫教授でした。この二人の先生に出会わなければ、統計の仕事をしていなかったと思います。

現在はどのようなお仕事をされているのですか。

佐藤●私は現在、統計調査部の消費統計課にいます。当課では個人消費の動向を需要側から把握する家計調査および同調査を補完する家計消費状況調査を実施し、その結果を毎月公表しています。その中で私は調査結果の公表や同調査の標本設計等を担当する3つの係（スタッフ11名）を統括する仕事をしています。

統計は卒業してから使うことが多いのですが、授業で習う統計は意外と実践的でないように思います。統計を学ぶ上で何がポイントでしょうか。

佐藤●確かに統計を授業で習うと、分散や変動係数、 $\chi^2$ 検定などという用語や $\Sigma$ や $\Pi$ の付いた算式に振り回されてしまうことが多いかもしれません。しかし、統計を学ぶ際には、まずは集計されたデータ、すなわち結果表（人数や平均金額など）の値から分かる特徴をとらえる力を身に付けることが重要です。

これは余談ですが、最近は膨大なデータでもパソコンにより手軽に統計分析ができるようになりました。そのため、分析するデータの分布状況や項目間の関係など基本的な特徴を確認せずに、多変量解析などの高度な統計分析を行う人がいます。しかし、統計分析は手順を踏まないと、手法は正しくても誤った結論に至ってしまう危険があります。

統計の魅力は何でしょうか。

佐藤●調査や実験で得られた個々のデータを見ていたのでは、対象全体の傾向や特

性は分かりません。しかし、得られたデータを統計的に処理することにより、それらが明らかになること、これが統計の魅力ですね。私が携わる行政の面では施策の立案、実施およびその評価の上で、統計は欠かせぬものです。特に経済統計は、我が国の経済運営にとって必要不可欠な情報です。

学生時代の印象深い思い出をお話してください。

佐藤●地質鉱物学科では卒論のほかに4年生へ進級するための進級論文が3年次にあり、どちらもフィールドへ出て地層や岩石を調査することが必要でした。これらの野外調査や、そこで採集した岩石・鉱物の分析



卒論野外調査にて後輩と一緒に（右が佐藤さん）

の際に指導教官のほか、院生の方々からも熱心に指導していただきました。特に卒論では、当時、助手だった赤井純治先生（現在、教授）からマンツーマンでご教授いただいたことが今でも忘れられません。また、後輩の方々に野外調査や卒論発表の準備の際に大変お世話になりました。

将来の夢はどのようなことでしょうか。

佐藤●今年の3月まで2年間、東京大学の社会科学研究所において、民間の調査機関や大学等の研究者が実施した社会調査等のマイクロデータ（個票）を収集、整理、保存したデータアーカイブの管理・運営を担当するとともに、それに関連する研究に従事していました。また、経済学部において経済統計の見方を中心とした授業を担当いたしました。そこで、機会があればこの経験を生かし、いつか母校である新潟大学において、何かお役にたてる仕事、恩返しができるのであれば嬉しいことだと思っています。

最後に、後輩の皆さんにメッセージをお願いいたします。

佐藤●私の場合、専攻した地質学や鉱物学の知識等をそのまま活用する職業には就きませんでした。ゼミや卒論などの際に学んだ研究分析の過程が職場では大変役立っています。専攻する学問の知識の習得だけでなく、新たな知見を導き出すプロセスも身に付けて社会に出れば、どんな職業に就いても良い結果が得られると思います。



データアーカイブのシンポジウムに出席



現在の職場である総務省統計局にて



東京大学社会科学研究所の研究室にて

# Tomohiko SATO



## 社会の一員として私にできること

### 岡田 朋子 さん

●プロフィール  
1991年3月、歯学部卒業。現在、歯科医師の傍ら、新潟動物ネットワークの代表として活躍。  
新潟動物ネットワークホームページ [http://ndnland2.picot.ne.jp/NDN\\_HP.html](http://ndnland2.picot.ne.jp/NDN_HP.html)

岡田さんは、新潟動物ネットワーク(NDN)代表を務められていらっしゃいますが、どのような活動をされているのですか。

岡田●NDNは「身近な動物たちの問題をできることから解決していこう」という主旨で5年前に立ち上げた会です。主な活動は保健所に収容された犬や猫の飼い主探し、子どもたちに命の大切さや動物を飼うことへの責任感を伝える学校訪問活動、飼い主のいない猫のお世話をしている人への支援、劣悪多頭飼育現場(1人で100匹近くの犬猫などをひどい環境で飼育している現場)の環境改善などです。

新潟動物ネットワーク設立の動機は何だったのでしょうか。また、順調に設立できましたか。

岡田●たまたま街で手にしたチラシがきっかけです。「動物園の動物は幸せなの?」と書かれたALIVE(地球生物会議)のチラシを見てショックを受けました。動物は好きだけど、動物の立場にたって考えたことはなかったので、これはいけない...と。身近な問題を解決していくことで、最後は何かにつながっていくんじゃないかと考えて有志で会をたちあげました。

最初は何ができるかわからず、保健所の



スキー部合宿(後列右から3人目が岡田さん)

剥き出しのコンクリートで寒さに震える犬を見て、古毛布を送ることから始めました。失敗のくり返しで今があるように思います。

歯科医師として地域歯科医療に携わる傍ら、もうひとつの地域活動かと思います。地域活動を行っていく上での共通点や相違点などはありますか。

岡田●社会の一員として何かに自分を役立てる、という点で同じだと考えています。歯科医師として患者さんの健康管理をする一方で、私のような素人でも身近な動物問題に何らかの役に立てていることを実感しています。

卒後研修にて



学校訪問活動

小・中学校、高等学校で講演を行っているとお聞きました。どのような講演をされているのですか。

岡田●ペットとして飼われている犬や猫が新潟県だけでも1年間に約5,000匹が殺処分されている現実をお話しています。そして、不幸な境遇から今は幸せに暮らす動物たちを紹介して、実際に触れ合うことで命の大切さを伝えていきます。子どもたちは本来、純粹で動物を慈しむ優しい心を持っていて、バーチャルな世界ではない現実を伝えることで驚きと自覚を持ってくれるように思います。



保健所で処分された猫たち

今後どのような活動をしていく予定ですか。

岡田●私たちの生活にはペットに限らず多くの動物が関わっています。人間も動物も共にしあわせに暮らせるような社会になることが理想です。そして、NDNのような会がなくなり、それが当たり前になれば良いなあと思っています。

新潟大学の五十嵐キャンパスには多くの猫が住み着いているようです。後輩の皆さんにメッセージをお願いいたします。

岡田●元々、猫は野生動物ではありません。「捨てる人間」がいて、そこで「生きていくしかない猫たち」が存在するのです。卒業シーズンになると飼い主のいないアパートの前でじっと待つ猫の姿があるそうです。安易に飼わないこと、絶対に捨てないこと、そして今ある命を大切にすることですね。猫は年に3回くらい子猫を産んでしまうので、繁殖制限のための不妊去勢手術は絶対にしてください。



岡田さんの愛犬「太郎」(新潟市保健所から譲渡)

# Tomoko OKADA



## たった一度の人生、 あなたはどう生き抜く？

### 吉井雅栄さん

●プロフィール  
1987年3月、工学部電子工学科卒業。  
現在は、弁理士として吉井国際特許事務所（長岡市）に所属。

吉井さんは工学部をご卒業し、弁理士をされているとお聞きしました。どのようなお仕事をされているのですか。

吉井●弁理士は、特許等の知的財産権（独占権）取得のための出願手続きや、これに関する訴訟手続きの代理人として認められている国家資格で、主に理工系大学出身者が大半を占めています。もちろん弁護士さんも弁理士は法律資格の一つですから弁理士資格を有しています。

私は工学部出身で、依頼を受けた県内企業の発明を理解し、これを図面と文章にして、スムーズに独占権たる特許を取得しつつも、可能な限り広い権利範囲を得べく特許庁と争うことを主な仕事としており、私自身年間200件くらいの特許を企業から任されています。

特許成立の成功率は、どのくらい権利範囲を狭くするかによって左右されるもので、これはクライアントの意志によって決まることも多く、一律なものではないのです。

この仕事は日々新しい発明と出会うことになり、毎日が驚きであり、いわば日々違う仕事をしています。

この辺はみなさんの想像を絶するかもしれませんが、電子工学科卒でありながら、食品

関連に奮闘したり、樹脂成形機を学んだり、携帯電話のメカ部分を細部にわたって特許取得したり、中国からの模倣品を裁判でやっつけたり、逆に中国側に立って大手メーカーからの特許攻撃をかわすべく改造に手を貸したりしています。

水筒があんなに安く特許問題なく販売されているのにも、実は私が一枚からんでいるんですよ（笑）。

弁理士になるにはどうしたらよいでしょうか。

吉井●弁理士の国家試験の試験科目は、主に知的財産権に関する法律科目であり、東京の予備校に通っておおよそ5～7年、働かず浪人状態が確保できれば2～3年で合格可能な試験です。

私も大学3年生の時に上京し、約3年で合格し、弁理士18年目です。

弁理士の資格は、弁護士と違ってほとんど理工系の受験者であって、その職業はあまり知られていなく、いわば技術系の脱サラ資格で平均合格年齢は30～35才です。会社勤めの途中でいつか会社を辞めてやるなどの気持ちからこれを目指すのが一般的なパターンかもしれません。

従って、学生時代からそのまま浪人して



クライアントの工場内にて

働かずに勉強できる環境を得れば、楽しい青春時期ではありますが僅か2～3年間世の中との一切の接触を絶てば、絶てればですが比較的容易な試験です。

そもそも私は2代目で親が全面的にバックアップしてくれましたので、大学3年で留年したのを契機に、新潟と東京に二つのアパートを借りながら在学中から勉強を始めて、卒業後1年間は人との接触もテレビ・映画も一切絶つことで、他の受験生に比べれば苦労なく合格しました。

傍目では理工系の学生は法律などを敬遠しがちかと思えます。ご苦労はありますか。

吉井●法律は受験勉強でたっぷりしましたし、専門外の法律は弁護士さんと常にタッグを組んで仕事をしますのでこの点苦労は感じませんが、やはり特許権侵害による損害賠償など企業の命運がかかる場合すらありますので、そのプレッシャーは常にあります。

弁理士をされていて、興味深い出来事などはありましたか。

吉井●仕事をして18年、本当に色々な発明に接することができ、日々興味深い出来事ばかりです。



職場にて

様々なことを浅くしか知ることが出来ませんが、地方にいて様々な中小企業から仕事を頂いていますので、東京に比べて広く色々なことを知ることができ、直接現場を見、また経営のトップの方や開発のトップの方とお話をする機会も多く、この経験は本当に私の財産と感じています。

学生時代の楽しかった思い出を教えてください。

吉井●学生時代の思い出は、ゴルフ部に属し、毎週楽しくキャディーをしてその後仲間と楽しくラウンドしたことにつきます。

お仕事に関する事で、将来の夢はどのようなことでしょうか。

吉井●特に大きな夢を持ったことはありません。小さな夢が少しずつ叶うことで満足していますが、自己満足かもしれませんが、少しでも地元新潟のためになっているのであれば幸せです。

地元の方々からかわいがられて仕事をし、地元が発展し、僅かでもその力になっていることが少しでも実感できればと思って仕事をしています。

最後に、後輩の皆さんにメッセージをお願いいたします。

吉井●卒業後20年振り返って思うことは、果たして好きな道を自分は選び、好きな道を進んでいるかどうかということです。

ぜひ学生の皆さんは周りに惑わされず、自分の好きな道、やりたいことを見つけてそれを職業にして下さい。よく言われることではありますが、これを実践している人は意外に一握りの限られた人で、人生に恵まれた人だけであって且つ本当の努力家だけだと思います。本当の幸せ・楽しさはこの一握りの努力家達だけに許されているような気がします。

もちろん、私も私の友達も当時考えましたが、やはり周りのしがらみや宿命だけでなく、どうしたら自分の小さな能力で楽にお金や家が手に入れられるかなどを考え、楽な方へ、楽な方へと周りに流されながらその中で努力し、幸せを追い求めて生きてしまいます。こうすることで人よりも少し良い生活は手に入れますが…。

もちろんこれを全うすることだけでも難しく、そして恩を受けた方々へ恩返しすることも簡単そうでいて難しいと思います。

しかし、たった一度の人生、せっかく新大で学び、普通の人以上の教育を受け恵まれた力を少なからず持っているのですから、お金のことなど考えずに好きな事を極めて頂きたい。

私の見る限り、好きなことを極めれば必ずお金はあとからついていっています。

例えば、先の工学部80周年の毛利さんの宇宙飛行士を目指した講演を聞きました。当時学生時代であれば、成れっこない、自分の能力からみてこれを目指すなどは子供じみている、死ぬほどの努力が必要そうだが、どうやって将来食べていく、まともな家に一生住めないなどと考えていたでしょう。しかし今は好きなことに没頭して20年経てば夢は叶い更に夢が広がり、自らの成長を感じ幸せを実感する。お金もはやあとから必要なだけついて来るのだと改めて確信しました。毛利さんに限らず、あらゆる分野で好きなことを20年没頭して努力した人には素晴らしい道が開けています。

ぜひ、好きなことに人生をかけてみて下さい。

M a s a e i Y O S H I I



# 新潟の文化を訪ねて



2本の大河が日本海に注ぎ込む、その下流に位置する新潟市。川や海からの風を感じることができるまちです。「りゅーとぴあ（新潟市民芸術文化会館）」と「みなとぴあ（新潟市歴史博物館）」は、水の都を体感できるような環境を生かして建っています。今回はこの二つの文化施設を訪問し、りゅーとぴあ支配人の鈴木さんとみなとぴあ館長の甘粕さんにお話をお聞きました。



上ノ正面にパイプオルガンを設置したコンサートホール。その音響の良さは数多くのアーティストから絶賛されています。

左ノコンサートホール舞台裏の壁には、過去出演された方々のサインやメッセージが。



## 七つの庭園に囲まれた三つの専門ホール りゅーとぴあ

「文化の拠点施設に」。りゅーとぴあ（新潟市民芸術文化会館）は、そんな市民の願いから生まれた文化施設。白山公園から信濃川・やすらぎ堤までのあふれるような緑の回廊の中核に位置しています。三つの専門ホールでは音楽や演劇、古典芸能など、さまざまな質の高い鑑賞事業や育成事業が行われ、芸術に接する機会や場を市民に提供しています。また、新たな芸術文化を全国に向け発信する新潟発創造事業も全国的に注目を集め、新潟市の文化向上の確かな礎となっています。



「りゅーとぴあへまずは足を運んでほしい」と話す鈴木支配人も、新潟大学の卒業生。

財団法人新潟市芸術文化振興財団  
りゅーとぴあ支配人  
鈴木栄子さん

### 新潟に専門ホールを— りゅーとぴあ建設の経緯

昭和50年代末頃、新潟市内には新潟県民会館、音楽文化会館、新潟市公会堂しかなく、市民の皆さんからホール建設の陳情が出ていました。当時は全国的に専門ホールの建設ラッシュの時期。「オーケストラや演劇、古典芸能が開催可能な施設を」というニーズを受け、昭和63年に白山公園とその周辺地区に、公園と文化・スポーツ施設が一体的な機能を持つ施設の構想、いわゆるセントラルパーク構想が打ち出されたのです。

そして、建設資金の積み立てを始め、平成5年に基本設計に着手。平成10年10月に開館しました。「りゅーとぴあ」は、開館の翌年に愛称を公募した際に、柳の都の柳都とユートピアを合わせた言葉ということで選ばれた名前です。

### りゅーとぴあの魅力と実績

りゅーとぴあは、コンサートホール、劇場、能

楽堂という三つの専門ホールに加え、ギャラリーなどを一つの館の中に備えているのが大きな特徴です。そして信濃川、やすらぎ堤、白山公園という、すばらしい景観の中にぴったりマッチしていて、建物の見た目も素晴らしい。「緑の回廊を作りたい」という設計者の大きなコンセプトが、よく活かされた形になっていますね。

三つの専門ホールの機能の高さ、そこで展開している事業のクオリティの高さは全国的にも特筆される点です。このところ、今まで一つ一つ大切に組みこんできた結果が、目に見える評価という形で現れています。例えば、能楽堂という和の様式の中でシェイクスピアの世界を描くシリーズ。その第三弾の「冬物語」はルーマニアで行われたシェイクスピア国際フェスティバルからお招きを受け、現地での公演は大成功を収めました。更に昨年、りゅーとぴあはJAFRAアワード（総務大臣賞）を受賞しました。これは、音楽文化会館時代から行っているジュニア音楽教室の育成、1コインコンサート、日本初の劇場専属

ダンス・カンパニーNoismなどを全国に向けて発信し、りゅーとぴあが地域の拠点となっていることが評価されたものです。

地元の方はもちろん、東京から来られるアーティストや演出家の方々、裏方さんなど、皆さんが「素晴らしい景観はもちろん、施設だけでなく、ここで演じた時に感じる新潟のお客様のあたたかさが自分たちを惹きつける」と言っており、りゅーとぴあをすごく愛してくれています。そして次はもっと良いものをまたりゅーとぴあで演りたいと思っていただける。とても嬉しいです。

### 新大生もどんどん りゅーとぴあの活用を

能楽堂シェイクスピアシリーズには新大生が2人出演していますし、新大の管弦楽団や吹奏楽部、演劇研究部からはりゅーとぴあで定期公演を開催していただいています。また、りゅーとぴあ主催事業の裏方の仕事で新大生に協力いただくケースも増えてきています。研修という形で受け入れさせてい

ただくこともありますし、こちらからボランティアをお願いすることもあります。学生の皆さんから「こういう形でりゅーとぴあに関わってみたい」という声をいただくと、新しい取り組みができるかもしれません。りゅーとぴあに関わることによって、学生の皆さんが何かを感じて、身に付けてもらえるような機会を考えていければいいですね。

りゅーとぴあ主催事業の中には学生でも鑑賞しやすいように学生券を設定しているものもありますし、育成・普及系の事業を中心に低価格のものもあります。開館中はいつでもフリーに入れる空間もありますので、まずは、足を運んでみてください。

### りゅーとぴあが これから目指すこと

りゅーとぴあは、2年後には開館10周年を迎えます。今まで、育成・普及・鑑賞・新潟発創造事業として、数々のソフト創りに取り組んできました。これからはさらにそれらを充実させていくことによって、一人でも多くの方





左/りゅーとびあ能楽堂シェイクスピアシリーズ・第三弾「冬物語」ルーマニア公演。

下/りゅーとびあ舞踊部門芸術監督 金森様率いる、りゅーとびあ専属ダンス・カンパニーNoism。



# ryutopia

に夢と感動を与え、それらをお互いに共有していけるシーンを作っていきたいと考えています。

文化というのは、それぞれのまちの魅力の切り口として非常に大きな要素ではないでしょうか。新潟市がこれから政令指定都市となり、シティプロモーションの観点からも、文化は大事なキーワードとなります。そのときに、りゅーとびあがその中心となり、市民に愛されながら、多くの方々との幅広いネットワークを生かして、**新潟の魅力を全国に、世界に発信していきたい**と思っています。

## りゅーとびあ おすすめ公演

### りゅーとびあ能楽堂シェイクスピアシリーズ・第四弾「オセロー」

日時●8/22・8/23・8/25 19:00開演 8/26 14:00開演  
場所●りゅーとびあ能楽堂 料金●全席指定5,000円(学生3,500円)

### 東京交響楽団 第39回新潟定期演奏会

日時●11/19 17:00開演 場所●りゅーとびあコンサートホール  
料金●S席7,000円、A席6,000円、B席5,000円、C席4,000円、D席2,000円《9/1発売》

### Noism06「Triple Vision」

日時●11/10 19:00開演 11/11・11/12 17:00開演  
場所●りゅーとびあ劇場 料金●全席指定5,000円(学生2,500円)《9/17発売》

## 新潟の文化を訪ねて DATA

### りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館

〒951-8132 新潟市一番堀通町3-2  
URL <http://www.ryutopia.or.jp/>

●館内案内ダイヤル  
TEL 025-224-5622 (11:00~19:00)

●チケット専用ダイヤル  
TEL 025-224-5521 (11:00~19:00)

●開館時間  
9:00~22:00

●休館日  
毎月第2・第4月曜日、年末年始(12/29~1/3)

●交通アクセス  
JR新潟駅万代口からバスで15~20分  
「昭和大橋・古町経由湊町・入船町」行で「白山公園前」バス停下車徒歩3分  
「中央循環川岸町経由新潟県庁」行で「陸上競技場前」バス停下車徒歩5分  
「信濃町」行で「市役所前」バス停下車徒歩7分

## りゅーとびあで活躍する卒業生からのメッセージ

### 人とのつながりが大きな魅力

現在はりゅーとびあが主催するソフト事業のPRが主な仕事です。以前は施設利用の窓口の仕事に携わっていました。財団への就職を希望したのは、新潟で音楽などに関わる仕事に就きたかったことが大きな理由でしたが、それに限らずいろいろな方々とコミュニケーションを積み重ねることが良い結果を生み、それがまた次へつながることがこの仕事の大きな魅力だと感じています。これからも人とのつながりを大切にして、りゅーとびあを利用する学生や市民の方々に、いま以上に愛着をもっていただけるような仕事ができれば嬉しいです。



財団法人新潟市芸術文化振興財団 事業課 広報営業担当

西谷 幸敏 さん

人文学部1996年卒

## 新潟の文化を訪ねて



## 水の都にいがたの歴史と文化に出会う みなとびあ

「新潟の歴史や文化を体感し、楽しむことのできる場を」という構想のもと、平成16年3月に開館したみなとびあ(新潟市歴史博物館)。旧新潟税関庁舎(国指定重要文化財)、移築・復原された旧第四銀行住吉町支店、2代目市庁舎の外観をもとにデザインされた博物館本館は、往時の新潟市をしのばせます。みなとびあは、新潟市の歴史を軸として人々が触れ合える、新しい憩いの空間です。



「みなとびあを見学することによって、自分が住んでいる地域を知り、誇りに思ってもらいたい」と語る甘粕館長。

財団法人新潟市芸術文化振興財団 みなとびあ館長

甘粕 健 さん

## 新潟の歴史と文化に触れる場に—— みなとびあ創立の経緯

みなとびあの要ともいえる旧新潟税関庁舎は、明治2年に新潟運上所として完成しました。開港5港の税関庁舎として残存する日本唯一の建物です。新潟市では早くからこの建物を利用した郷土資料館が活動し市民の皆さんに親しまれてきましたが、近世の新潟湊の歴史が中心でした。新潟市の歴史には、豊かな湊町とそれを支えた背後の低湿地の農村という二つのとてもユニークな歩みがありました。そのため、古代から現代までの新潟市の歴史を研究し、それをトータルで紹介して未来を展望するような学習の場が求められていたのです。

みなとびあは三つの特徴的な建物を中心になっています。旧税関庁舎(国の重要文化財)を敷地内に取り込み、大正・昭和の繁栄を象徴する第四銀行住吉町支店を正確な形で移築・復原。さらに明治44年に建





奈良・平安時代にサケ漁をしていた集落を模型で再現。



信濃川と阿賀野川の流域模型。



白山神社の拝殿にかかる大船絵馬の複製。新潟湊での米の積み込みの様子が描かれています。



初代萬代橋と信濃川の150分の1模型。初代萬代橋は約782mの長さでした。

# minatopia

みなとぴあで活躍する  
卒業生からのメッセージ

## 学んだ民俗学を生かして 新潟の生活文化の 歴史を伝えたい

大学時代は昔の生活文化について学んでおり、研究会などの活動を通じて郷土資料館にも通っていました。それから歴史博物館を建設する部署に採用され、今は博物館の学芸員として、資料の収集、整理、保管をする仕事を中心に、企画展の構成などを行っています。今後の目標は、市民の皆さんが自分の地域の歴史を知りたいと思ったときにいろいろな情報を提供し、情報をお互いに楽しみあうことができる場を作ること。そのためには、基礎となる歴史資料や民俗資料の収集と調査、また詳しい知識がある人たちとのつながりをつくっていくことが必要だと思っています。



財団法人新潟市芸術文化振興財団  
学芸員

森 行人 さん  
人文学部1998年卒

てられた2代目の新潟市役所庁舎の外観デザインを再現して建てられたのが、新潟市歴史博物館本館です。そして、佐渡汽船の巨体が目の前で旋回するという、新潟市の湊の歴史を改めて体感できるロケーションもすばらしいものがあります。

### 新潟の歴史の魅力と みなとぴあの特徴

越後平野は二つの大河が貫いていて支流もたくさんあります。それらがみな、ここ新潟市で日本海に注ぎ込んでいます。大動脈と静脈、毛細血管のように、新潟市は隅から隅までが水路でつながっていたのです。河川を通過して穀倉地帯の米が新潟湊に届き、そこから大坂や江戸に運ばれていきました。新潟が日本の近世において流通の一大拠点となった所以です。このように新潟市の歴史と水は切り離せないため、「郷土の水と人々の歩み」がみなとぴあ常設展示室の根本にあるテーマになっています。

常設展示室はコンパクトではありますが、

実物資料と模型、映像を駆使し、展示方法にも工夫がされています。さらに、専門学芸員を中心に、考古学、民俗学、美術というトータルな新潟市の歴史文化を研究して情報を提供できるような体制をつくっています。常設展以外に多様な企画展を開催しているのも特徴の一つ。年4回の大きな企画展の間に収蔵品展などを開いて、寄贈していただいた資料を見ていただく機会を設けています。そのため、「訪れるたびに新しい発見がある」と何度も足を運んでくださる方も多いようです。

### 講座やボランティアなど 新大生も積極的に参加を

今年の夏の新潟市合併記念展『新潟の舟運—川がつなく越後平野の町・村—』(7月15日から9月3日まで)は、大学生にもおすすめの企画展です。新潟市における舟運の重要性、舟運が新潟市の発展にどのように影響を与えたのか理解していただける資料を展示します。目の前の船着場から水上

バスに乗って関係各地を訪ねる企画も考えています。

ほかにも企画展に合わせた講演会や、通年でやっているいろいろな講座も学生の皆さんに利用していただきたいものです。また、みなとぴあでは登録制のボランティア制度を設けています。常設展示室をガイドする常設ボランティア、屋外を案内する敷地ボランティア、それに体験プログラムのお手伝いをする体験ボランティアの三つです。学生ボランティアの方もいらっしゃいますので、皆さんもぜひ参加してください。

新潟大学の旭町キャンパスには旭町学術資料展示館がありますが、すばらしいことです。大学の教育は頭の中だけで行うものではないと、私は思います。旭町学術資料展示館とみなとぴあが補い合い、学生たちが物を見て自分の考えをちゃんとまとめていける学習の場として役立ちたいですね。新潟大学とみなとぴあが双方向に希望を出し、触発的に新しいものを目指していければと考えています。

### みなとぴあが目指すこと

新潟は金沢と並んで日本海側最大の都市として発展してきました。しかしその歴史は住んでいる私たち自身も知らないことが多いようです。北前船の湊としての繁栄は知られていますが、さらに奥深い面白い歴史があることをみなとぴあができて初めて市民の皆さんは認識できたのではないのでしょうか。そういう点で、みなとぴあは政令指定都市として発展していこうとする新潟市になくはない施設だと思います。

広域合併により蒲原平野の主要部分が集まりました。旧新潟市地域だけでは語り尽くされなかった、新潟の通史がひも解かれようとしています。常設展も新しい新潟市の地域像に近づけるように、段階的にリニューアルしていきたいと考えています。

みなとぴあは、まだまだ未完成かもしれませんが、でもそれだけに市民の皆さんとスタッフみんなで充実させていきたいものです。

### 新潟の文化を訪ねて DATA

#### みなとぴあ 新潟市歴史博物館

〒951-8013 新潟市柳島町2-10  
TEL 025-225-6111 FAX 025-225-6130  
URL <http://www.nchm.jp/index.html>

●開館時間  
(4月～9月) 9:30～18:00  
(10月～3月) 9:30～17:00

●休館日  
月曜日(その日が休日に当たる場合はその翌日)、休日の翌日(その日が土曜日または日曜日に当たる場合は火曜日)、年末年始(12/28～1/3)、くん蒸期間等

●常設展示観覧料  
大学・高校生(一般) 200円

●交通アクセス  
JR新潟駅万代口から  
新潟市観光循環バス(犬夜叉号)で15分  
「歴史博物館前」バス下車すぐ  
「昭和大橋・入船営業所」行バスで25分  
「歴史博物館前」バス下車すぐ

#### みなとぴあ おすすめ展覧会

平成18年度新潟市合併記念展  
新潟の舟運—川がつなく越後平野の町・村—

日時●7/15～9/3 9:30～18:00  
休館日●7/18・24・31 8/7・21・28

料金●大人(一般) 600円、  
大学・高校生(一般) 400円



# 副専攻のススメ

平成18年3月、新潟大学では初めて18名を副専攻修了者と認定しました。「新大広報」では、副専攻の制度の利点、あるいは大学生活の参考のために認定者からの感想・助言をいただきました。あなたも挑戦してみませんか。

平成17年度副専攻認定者数

プログラム名	認定者数
環境学	1
メディア・リテラシー	5
MOT基礎 (特許・経営及び製品開発基礎コース)	6
芸術学	3
文化財学	1
外国語(ドイツ語)	2

**副専攻制度とは** 副専攻制度は、所属学部学科の学位とは別に、特定分野の学習成果を認証する制度です。専門分野の勉学の成果は、卒業時に「学士」という称号を得ることで、社会的に認知されます。しかし、従来、専門分野以外の分野について、学習成果を認証する制度はありませんでした。仮に法学部の学生が社会的関心に触発されて、一定水準以上の情報科学の勉学を行ったとしても、それは社会的には認知してもらえませんでした。

副専攻制度では、当該専門分野以外の特定分野科目を一定単位数以上取得した学生にその勉学の認証を付与する制度です。学生は卒業にあたって副専攻認定の申請を行います。一定基準を満たしていることが確認されれば、専門分野に関わる「学士」の卒業証書に加え、分野を明記した「副専攻」を認定する証書を発行します。

先の例のような学生は、卒業時に「学士(法学)」の学位に加えて、大学で環境科学を学んだ公的な証明として、環境学の副専攻認定が受けられます。副専攻認定に触発されて、自主的に環境学分野で一定水準以上の学習をした法学部学生は、きっと社会の中でその経験を活かしていけるはずですよ。

## 環境学

### 結果より過程主義

私は「取得できるものは全て取得しよう」という動機の下、副専攻認定を目指しました。動機付けこそ不純ですが、最終的には多くのことを学びました。そこで、私なりにアドバイスをしたいと思います。

まず、目的を持って認定に臨んでください。私は「幅広い知識と経験を得る」という目的の下、認定に臨みました。認定を受けるからには、有益となるよう目的も持ち、モチベーションを高め、物事をより多く吸収してください。

また、私は認定科目を選定する上で、できるだけ自分の専門から外れた科目を聴講するように心がけました。ここに副専攻制度の意義があるので、できるだけ他分野に目を向けてみてください。

大学生活では、副専攻認定を目指すなど様々な方面にアンテナを立て、その中から自分の興味を持った分野を見つければ良いと思います。失敗を恐れず、何事にも挑戦する精神をもって大学生活を全うしてください。

筑波大学大学院修士課程環境科学研究科  
(理学部卒)  
齋藤健志さん



左から2番目(韓国ソウル市内)

## メディア・リテラシー

### きょうの学びは未来の自分



「大学時代」は、「なりたい自分」を考え、そこに向かって準備できる期間です。だから、一生答えを探し続けるような、人生のテーマを見つけ、やりたいこと、好きなことを満足するまで極めるべきです。

私は、必要なこと、足りないことを埋める目的と、一貫して興味を持っている「メディア」を理解したいがために、副専攻を受講しました。そのおかげで、いま自分のやりたい仕事ができているし、人生に不満がありません。やりたいことも尽きません。

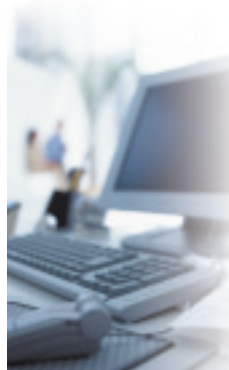
例えば仕事の間でも、学生時代に育んだ、ビジネスとは異なる視点のおかげで、多角的にネット広告を捉えることができている。仕事に、喜びや楽しみを感じる余裕があります。

後輩のみなさんに、伝えたいことはひとつ。新潟大学は、副専攻が設置されたことで、人生を極めたい人が学べる環境が整いつつあります。自分の一生を丁寧に生きるために、この環境を利用してみましょう。

株式会社サイバーエージェント インターネット広告事業本部  
(人文学部卒)  
高橋智里さん

副専攻プログラム一覧表(平成18年4月現在)

プログラム名(課題別)	プログラム名(分野別)
環境学	法律学
メディア・リテラシー	政治学
MOT基礎 (特許・経営及び製品開発基礎コース)	経済学
芸術学	会計学
文化財学	電子・情報科学
外国語(ドイツ語)	統合化学
外国語(英語)	
外国語(フランス語)	
外国語(ロシア語)	
外国語(中国語)	
世界システム論	
平和学	
地域学	



今回紹介する先輩たちが取得した副専攻の概要は、次のとおりです。

#### 環境学

環境問題は、地球システムの認識に始まり、社会の経済活動に至る多様な分野に関わる問題である。人文学部、経済学部をはじめとする文系学部開設科目と理工農など自然系学部開設科目を活用して、幅広い分野に渡る環境問題への基礎理解を促すプログラムを提供する。

#### メディア・リテラシー

各種メディアに媒介された情報伝達が加速度的に増加しつつある今日、そのようなメディア情報に対する、的確な読み取り能力と適切な表現能力、すなわちリテラシーの習熟は、不可欠である。多岐化するメディアは多くの領域に跨っており、そのようなメディア・リテラシーは、したがって、文理各分野を横断的に学修することによってこそ、十全な習得が可能となる。この副専攻では、新潟大学各学部において取り組み始められている、メディア・リテラシー教育を連繫させることにより、そのような課題に応えた、学業を支援する。

#### MOT基礎(特許・経営及び製品開発基礎コース)

組織経営と技術開発の両分野は、現代の日進月歩の企業社会において、大変重要な中核部分を形成しており、両分野とも互いの基礎知識を有する人材確保を必要条件としている。そのような状況を背景として、本カリキュラムは、経済・法・理・工・農などの各分野で開設されている科目と新しく開設する科目とを活用することで、技術経営の基礎を修得できることを目的とした副専攻である。

#### 芸術学

芸術は時代ごとの価値観を表出し、人文系諸科学の背景ともなっている。また私たちの生活を潤し、内面を豊かにしてくれる精神生活の精華でもある。この副専攻では、人文学部・教育人間科学部・農学部・工学部などの人的資源を活用することによって、感性による鑑賞の対象としてだけでなく、学問の対象として芸術を捉え直すことを通し、精神文化・造形文化の成り立ちを明らかにしつつ、人生をより豊かにするプログラムを提供する。



## 社会不安障害(社会恐怖)について

保健管理センター講師 坂戸 薫

最近、若者の引きこもりやニートと関連して、社会不安障害(社会恐怖)という心の病気が注目されているのをご存じですか。こうした若者の多くが実はこの病気にかかっているのではないかとされています。以前わが国ではこの病気は対人恐怖と呼ばれ日本人特有のものと考えられていましたが、社会不安障害という名の下に再把握が進み、日本人特有の病気でないことが示されています。

社会不安障害とは、人前でまじりが悪い思いをすることに強い恐怖感を抱く病気で、日常生活に支障が出るほどその恐怖感は深刻になる場合もあります。学校や職場で人と話をするのができなかつたり、人前で赤面したり震えたりするのではないかと不安になります。多くの人が初対面の人と会う前やスピーチを行う前に緊張することはありません。しかし、社会不安障害の場合、何週間も前から心配になります。そしてそれらの状況から避けようとしたりします。

社会不安障害は、たいていは小児期または思春期に発症する病気で、20代後半に発症することはあまりありません。誰もが社会不安障害になる可能性があるのですが、女性より男性に多いようです。

社会不安障害の成因としてかつてはその人の生い立ちや性格に重きが置かれていましたが、精神医学の進歩により医学的病気であり、薬によって治療可能であることがわかってきました。なかなか治らないとあきらめていた問題が、医学の力によって治るようになってきたのです。

以下、簡単なチェックリストをあげておきます。これらの項目にほとんど該当する人は、一度専門医に相談してみましょう。

- 人前で何か話して恥をかいてしまうのではないかと強い恐怖感がある。
- あやまちをおかしてしまうことや、誰かに見られ、評価されることがとても怖い。
- 何かしたり人にしゃべりたくても恥をかいてしまうことが怖くてそれができない。
- 人と会う前に何日も何週間も悩む。
- 知らない人と一緒にいる時またはそのような前に吐き気がしたり、震えたり、冷や汗をかいたり顔が赤くなったりする。
- 学校行事や人前で話すような社会的状況など、人の集まる場を避けることが多い。

## MOT基礎

### 自分の世界を広げるために

大学院自然科学研究科生命・食料科学専攻  
(農学部卒)

鈴木 蘭 さん



私の場合、主専攻に近く興味深かったのは環境学だったのだが、友人の影響でMOTに興味を持った。初めて聞く用語ばかりで多少戸惑いを覚えたが、せっかく主専攻と違う分野が認定されるのだから、どうせなら知識の幅を広げたいと思った。それに特許や開発に関する知識は研究職を目指す自分にとって必ず有益であると考えたのである。実際、他学部・他学科での受講は苦勞も少なくなかったが、卒業後も活かせる知識である技術者としての在り方や知的財産に関する知識を身に付けることができたのはもちろん、一つの専門に囚われない知識の広がり、学問分野の連携という意識は私の世界を広くした。起業や経営を考えている人でなくても、化学/科学に関連した研究や仕事を目指す人には特にMOTを勧めたい。

私は卒業式で、学位記と副専攻認定証を受け取ったとき言い知れぬ感慨を覚えた。努力して身に付けた知識は必ず役に立つが、物事を達成したという自信にも繋がるはずである。

## 芸術学

### 趣味としての絵画鑑賞と芸術学副専攻

大学院現代社会文化研究科  
(人文学部卒)

小野 慶子 さん

興味のある分野は、一つとは限りませんよね。私の場合、専攻のドイツ文学以外に、美術史にも関心がありました。当初美術史は「趣味」にするしかありませんでしたが、副専攻制度が始まったのをきっかけに本格的に勉強しようと決意し、副専攻認定を目指しました。

そして副専攻で学んだことは主専攻にも生かされました。卒業論文で私はドイツの児童文学作家ミヒャエル・エンデについて書いたのですが、彼の文学に多大な影響を与えたその父(画家)の絵画を理解するために、美術史を学んだことが役立ったのです。

副専攻に挑戦したことで、私はより自信を持って大学を卒業できました。例えば履歴書の趣味欄に堂々と「絵画鑑賞」と書けるのは(きっとそんな人はあまりいないでしょう)、私が「趣味」以上のものとして芸術学に取り組んだことを「副専攻認定」が証明してくれるからなのです。後輩の皆さんも積極的に副専攻を学び、「自信」を手に入れてみませんか？



## 災害復興科学センター設置

平成18年4月に、災害復興科学センターが設置されました。当センターは、平成16年に発生した新潟豪雨災害及び新潟県中越地震からの復興について、総合的な学術調査に基づく支援を目的としたもので、旧積雪地域災害研究センターを改組・拡充し発足しました。

中越地震は、日本の「原風景」ともたとえられる中山間地域で大きな被害がでたこと、加えて中越地域は世界的な豪雪地域で、地震・豪雪複合災害であることも大きな特徴です。中越大震災の復旧・復興は、日本の国土で最も広い面積をもち都市での生活を支える中山間地域で、これから予測される災害に対して多くの貴重な教訓を発信するものです。

当センターは、生活安全、地域産業支援、防災、情報通信の4部門からなり、このもとに専門別の13分野が属す総合的な組織で、総数68名の教員（専任8、特任5、兼任53、客員2）から構成されます。



妙見崩れ

■連絡先／災害復興科学センター  
TEL025-262-7051

## 大学院技術経営研究科設置

### 大学院技術経営研究科で何を学ぶのか

組織ではその目的遂行のために、個々の担当者が分担して仕事を進めることとなりますが、個々人の能力に大きく依存した仕事の進め方がなされ、組織全体の能力を発揮しているとは言い難いことが多くあります。

それぞれの組織には、いろんな分野に長けた人がおり、また経験豊富なベテランもいれば、必ずしもそうでない人もいます。いろんな分野に秀でた周りの人たちの力を借りることによって、担当者が見落としがちな隘路にも気づき、組織としての知力・脳力を活かした仕事ができれば、組織としての成果を最大にすることができます。

このような周りの人たちの知力・脳力を結集することによって、担当者ひとりでは陥りがちな推論の隘路にも気づき、的確にしてタイムリーに決断・実行する「組織として仕事をする」方法を学ぶことが求められます。

日々に遭遇する未知の課題に対し、このような組織の知の循環を通して、担当者ひとりでは考えられないようなすばらしい仕事ができるように、問題解決能力を育成することが本研究科の目指すことです。モノづくり技術開発基地としての新潟地域産業のイノベーションを図り、世界に向けて発信し続けていくサポート機能を担った専門職大学院です。

大学院技術経営研究科長  
栢田 正美



■連絡先／大学院技術経営研究科学務第一係  
TEL025-262-6332

## 新潟大学全学同窓会設立 —記念式典と祝賀会—

新潟大学の法人化と時を合わせて発足した新潟大学全学同窓会連絡協議会は、2年間の準備期間を経て、平成18年4月1日より、新潟大学全学同窓会として正式に発足しました。

今までどおり既存の9つの各学部同窓会が中心になることは同じですが、それに教職員による校友会会員、大学院修了生や協賛企業などを加えて、新潟大学を強力に支援する10万人のサポート団体が誕生したのです。

5月27日、各学部の同窓会代表と校友会の代表による理事会が開催され、予算の承認とともに、「同窓会カード」事業の推進、同窓会旗の制作などが決議されました。

同日開催された全学同窓会設立記念式典はホテルイタリア軒を会場に、柳本雄司会長・長谷川彰学長の式辞のあと、泉田裕彦新潟県知事、上原明新潟商工会議所会頭の来賓挨拶がありました。

祝賀演奏として管絃四重奏と「新潟大学学生歌」などの合唱があり、記念祝賀会に入りました。多和田孝雄副会長の主催者挨拶につづいて、篠田昭新潟市長の来賓挨拶、荒川正昭前学長の乾杯の音頭で賑やかに開会し、大石道明首都圏同窓会会長など多士済々の飛び入り挨拶や、シンボルマーク制定にご協力の橋本学先生への感謝状の贈呈もあり、



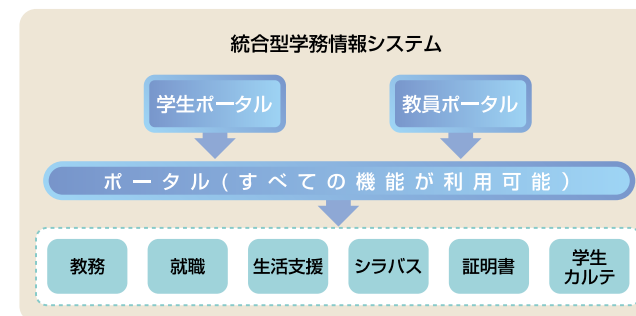
田中隆一副会長の閉会の辞で、全学同窓会設立の祝賀会は盛会裡に終了しました。

新潟大学全学同窓会会長  
柳本 雄司

■連絡先／新潟大学全学同窓会 TEL025-262-7891

## 8月から学務情報システムが生まれ変わりました!

新潟大学では、開講しているすべての授業科目を学生のみなさんが有効に受講できるようにしたり、特定分野の学習成果を認定する副専攻制度を導入したりするなど、新たな学士課程教育をめざした教育改革を行っています。



このような教育改革を強力にバックアップするため、みなさんが履修申請や成績の確認などで利用している現在の学務情報システムを、ポータルによるWebサービスへと一新しました。

新しいシステムは、これまでの機能に加えて、ポータルを通じて、必要な情報がすぐに見られるようになるなど、大変便利になりますので、積極的に活用してみてください!

■連絡先／全学教育機構学務情報部門  
support-ness@ge.niigata-u.ac.jp

新学務情報システム URL  
<https://ness.niigata-u.ac.jp/>

関連情報 URL  
<http://www.ge.niigata-u.ac.jp/iie/gakumu/gakunai/ness/>  
(学内参照のみ)



## 学務部からのお知らせ

### 新設 学業等成績優秀者奨学金制度新設

平成18年度から、新潟大学が独自に、学部学生を対象とした新たな奨学金制度として、入学試験成績優秀者及び年間学業成績優秀者に返還を要しない奨学金を支給し、顕彰する制度を設けました。



学業等成績優秀者奨学金授与式

この奨学金制度は、優秀な学生の確保及び在学生の更なる学業成績の向上並びに学生の活力の醸成を図ることを目的としています。

奨学金支給の対象者等の概要は、次のとおりです。

- **入試成績優秀者奨学金** / 大学入試センター試験を課す入学者選抜試験(特別選抜を除く。)を経て入学した者のうち、入試成績が各学部(医学部は各学科)の上位である者3名(合計30名)に支給
- **学業成績優秀者奨学金** / 2年生以上の学生で、前年度に取得した単位数の合計が標準修得単位数以上の者のうち、前年度の学業成績が各学部・各学年の上位である者3名(合計102名)に支給

■ 連絡先 / 学務部 TEL025-262-7337

### 違法駐車禁止!

本学では、通学距離の遠近にかかわらず、構内駐車を伴う学部学生の自動車通学を禁止しています。

ところが、一部の不心得な学生が、交通事情や実習等により帰宅時間が遅くなることを理由に自動車通学し、五十嵐キャンパス周辺道路又はコンビニエンスストア等の私有地に無断で長時間にわたり違法な駐車を行っています。

このことから、周辺住民から大学に対し、違法駐車への苦情や対策強化を望む申し入れが再三にわたり寄せられています。大学周辺での違法駐車は、地域住民、店舗や通行の迷惑になるばかりでなく、緊急車両等の通行の妨げにもなりますので、自動車の違法駐車はしてはいけません。

学生諸君においても規則を遵守し、自動車通学は絶対にやめてください。

■ 連絡先 / 学務部 TEL025-262-7506

### 新設 新潟大学修学支援貸与金制度新設

本制度は、学部及び大学院の学生を対象として、安定的な学修環境の確保を支援することを目的に家計事情等の理由により、一時的に必要となる学資(学会参加費、書籍代、教材費、授業料など)の支弁が困難な学生に対して修学支援金を貸与します。

対象者や金額等の概要は、次のとおりです。

- **修学支援貸与金の対象者**  
学部及び大学院生で、家計事情等の理由により、一時的に必要となる学資の支弁が困難となった者
  - **貸与金額**  
無利子の貸与金  
5万円以上10万円までの範囲で選択(万円単位)
  - **貸与申請の時期**  
4月期及び10月期とする。家計等急変者は、年度を通じて随時とする。所定の申請書により、申請理由を付す。
  - **貸与者の選考**  
提出された申請書により、学長が選考する。
  - **返還方法**  
借入日から2年以内に返還する。ただし、返還最終日が卒業の日を超えるときは、卒業の日までとする。
- 連絡先 / 学務部 TEL025-262-7337



新大中門向かいのセーブオン脇

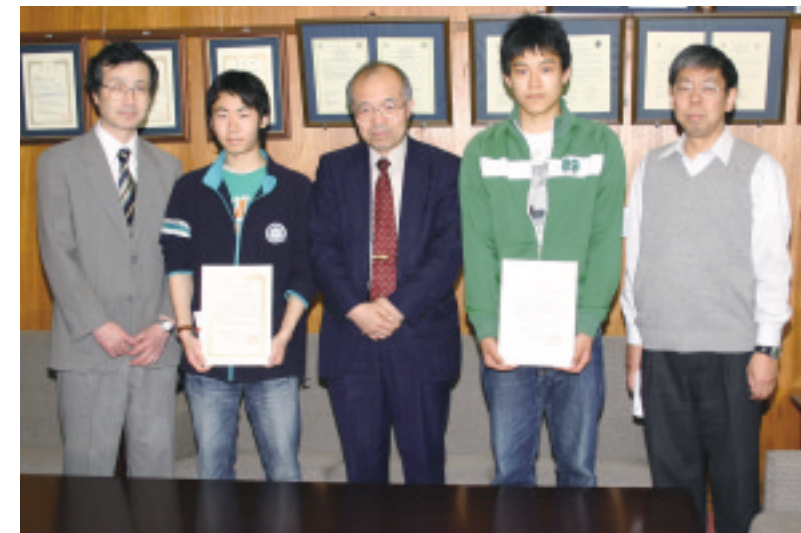
#### 違法駐車として特に問題となっているところ

- 新大西門隣接のコダマ薬局の駐車場
- 新大中門向かいのセーブオン脇の敷地
- 新大西門向かいのセーブオン駐車場

## お手柄! 工学部学生、人命救助で表彰

工学部では、ボランティア活動や課外活動、人命救助等で表彰に値する行為のあった学生を表彰しています。このたび、5月17日工学部において、仙石工学部長から、機械システム工学科の学生2人に対し、藤澤学科長と間瀬厚生委員立会いの下、表彰状と図書券が授与されました。

表彰された2人は、新入生の高橋竜冬君と豊田貴嗣君で、4月11日午後4時半頃、新潟市内野町の西川(1級河川)に誤って落ち、助けを求めている小学2年の女兒2人を発見、すばやく現場に急行し、近所に住むお年寄りと連携して救助しました。当日の夜に無事救助された女兒の母親から大学へお礼の連絡があり、はじめてわかったものです。工学部では、学生の模範となる行為で、大事故を未然に防いだとして、その功績を称えました。



左から間瀬厚生委員、高橋君、仙石工学部長、豊田君、藤澤機械システム工学科長

## 編集後記

新大広報161号の発行に当たり、全学同窓会のご協力を得ることができ、社会で活躍している先輩から貴重なメッセージを頂きました。感謝申し上げます。ご紹介できませんでしたが先輩にはお詫言申し上げます。これを機会に卒業生と現役の大学生とがうまく連携の取れた企画ができることを期待しています。

● 編集委員長 寺田員人

新潟大学の学生諸君へ、学内のさまざまな情報をお送りしている新大広報。今回から、学外の文化施設へも目を向けてより豊かな知的生活を送ろう、という提案をすることになりました。「りゅーとびあ」と「みなとびあ」には、新潟の文化を牽引する力と情熱があります。ぜひ出かけてみましょう。

● 編集委員 石坂妙子

今回の特集のために、経済学部の古参の先生方や編集担当の諸先生から、多彩に活躍する卒業生のお話を数々伺いました。大きく変化する社会経済環境に旅立つ学生のために、いま大学で何を教えるのか、一人の教員として考えさせられました。

● 編集委員 芳賀健一

今年度、副専攻制度での初めて認定者が出ました。GPA水準など厳しい条件を越えたもので、立派なことです。今回その認定者の方々の文章を読んで、そのバイタリティを感じました。多くの学生さんがチャレンジして、副専攻認定証書を獲得して欲しいと思います。

● 編集委員 竹内照雄

新潟大学のなかで生まれている膨大な情報の「海」から何をCampus Magazineに読み込んでいくのかは大変な作業ですが、今後さらに充実した誌面になっていくものと思います。私自身はこれまで留学生のお手伝いを比較的好くしてきていたのですが、国際交流の特集などもやってみたく考えています。

● 編集委員 井村哲郎

新大広報  
Back  
Number

[http://www.niigatau.ac.jp/gakugai/pr/c\\_forum/](http://www.niigatau.ac.jp/gakugai/pr/c_forum/)

新大広報のバックナンバーは上記のURLから見ることもできます。また、学務部学生支援課で受け取ることもできます。

新潟大学  
ホームページ

<http://www.niigata-u.ac.jp/>

## 広報委員会第1部会

- 部会長・編集委員長  
寺田員人 (医歯学総合病院)  
tera@dent.
- 委員  
石坂妙子 (教育人間科学部)  
ishizaka@ed.  
田中拓道 (法学部)  
takujit@jura.  
芳賀健一 (経済学部)  
haga@econ.  
竹内照雄 (理学部)  
takeuchi@math.sc.  
柴田 実 (医学部医学科)  
mshibata@med.  
川瀬知之 (歯学部)  
kawase@dent.  
林 豊彦 (工学部)  
hayashi@bc.  
末吉 邦 (農学部)  
sueyoshi@agr.  
井村哲郎 (大学院現代社会文化研究科)  
imurai@human.  
杉山博信 (大学院自然科学研究科)  
hydsugi@cc.  
横山肇介 (脳研究所)  
myoko@bri.  
馬淵憲治 (学務部長)  
kmab@adm.
- 事務局 (学務部)  
TEL 262-6309 FAX 262-7516  
E-mailのアドレスは、  
niigata-u.ac.jpの表記を省略しています。





新潟大学広報誌

新大広報

# Niigata University Campus Magazine

No.161

## 2006 夏号

編集・発行／新潟大学広報委員会・新潟大学学務部  
印刷／第一印刷所